

# Lib.

京都産業大学図書館報

V.34, no.2 (Sep.27, 2007)

## 特集

### 「秋の夜長, 王道を読む ～芥川賞・直木賞・ノーベル文学賞編～」

< 中央図書館開館 20 周年 >	8-9	< 自著を語る >	
< 海外の図書館紹介 >	10-11	41. '二一世紀国際法の課題'	岩本 誠吾
< LIB.なび >	12-13	42. 'チャレンジ精神の源流'	佐々木 利廣
図書		43. 'オーストリア 形象と夢'	生田 真人
雑誌		44. '神話のスパイラル'	中 良子
< 情報の探し方 >	14		
< 教員文庫寄贈一覧 >	15		
< Information >	15		
< 司書のお仕事 >	16		



# 秋の夜長、王道を読む

ようやく秋の気配がしてきました。今回は「読書の秋」に向けて、国内・外の文学賞を受賞した作家を中心に図書をご紹介します。「学問に王道なし」といわれるように読書にも「王道」はないのかもしれませんが、「何を読めばいいのかわからない...。」といった時に、国内・外で評価された作家の作品を押えておくのもひとつです。構えずに手にしてみれば、きっと面白いものに出会えると思います。ぜひ、秋の夜長に読書の扉を開いてみましょう。

まずは、先日行われた芥川賞作家 モブ・ノリオ氏の講演会報告からお届けします。

## モブ・ノリオ講演会報告

去る6月20日(水) 図書館ホールにて、まずは、小林一彦図書館長の挨拶。図書館のあるべき姿、それにともなう公共性。そして、利用者へのサービス。それら一環のひとつとして「書評大賞」にともなう今日の講演会がある、というお話であった。

つづいて、本日のゲストであるモブ・ノリオ氏の登場。テーマは「<書かれた言葉>について考える」である。氏をはじめてみる聴衆は、かれが一体どんな人間で、第一声はなにを話すのか？興味津々、固唾をのんで見守るような間合いの一瞬であった。

ところが、かれはおもむろに袋から黒っぽいTシャツを取り出し、演台のまえで広げてみせた。そこには英語で“Democracy We Deliver”。つまり「われわれがお届けする民主主義」の文字が背中に書かれ、爆撃機のような飛行機が描かれている。予期せぬ突然のできごとに、聴衆の多くはそれがなにを意味するものなのか理解できず、氏が「われわれが届けているのはバクダンである」とのブラックユーモアの説明に、そこではじめて中近東における現在の危機的状況

のみみだめた、というような按配であった。

耳をそばだて、話しを理解しようと一心に聞いているわたしには、のっけからのその様子がある種アブノーマルなもの。あるいはまた、個性ゆたかで鋭い感性をもっているがゆえのシュールな感覚、のようにも感じられた。

その後、はなしの内容は一貫した筋のもとで理路整然と語られるのではなく、語られることばのすぐあとから違ったことばが浮かび上がってくる。とい

ったように止めどなく言葉があふれ、ストーリーが出来上がってくる。一見、なんの脈絡もなく支離滅裂といえ言過ぎで礼を失するであろうが、それほどに氏自身のおもいうかべる想像力はゆたかで、かつ裏づけとなる具象性に富み、話の展開がはやい。

たとえば、今回モブ氏の講演のなかで、本学発行の書評リストをみて「選書の内容・種類が一方的」「企業のプレゼンのようなもの」「まずしい感じがする」といった具合で、こちらが黙っていれば好き勝手の言いたい放題にも聞こえる。しかし、そのあとに続く言葉にすぐわかる。「ゆとり教育の世代なのに、そのゆとりが感じられない」「ゆとりのなさは根深い」「社会の情報のながれのなかで、世の中に思い込まされていると



ころがある」といった発言には、世代にたいするおもいやりがある。モブ・ノリオ氏はものを書く人間として、またプロの作家としては黙ってられない、放っておけない。そういった現在の言葉にたいする閉塞的なこの世の状況にたいして苛立ちを覚え、変革をうながしているのではないか。見逃すことのできない言葉にたいする熱いおもい、強い意思・主張が根底にある。

だからこそ、モブ氏自らがそのゆがんだ状況の真っ只中で、マスコミへの欺瞞性・不信感、責任までも自分自身の問題として意識し、問い続けなければならない状況においこまれているのではないか。たとえば「過去の戦争に対して文化人・知識人はな

にをしたか？ 戦争を止めることが出来なかったではないか」、また「3年前の戦後60年周年のとき、五大文芸誌はどのような特集を組んだのか、そのさまは異様であった」等の発言は、「書くこと」の意味、「言葉」の本質、不条理な時代に生きる「人間たち」に鋭く問いかけている。つまり、ものを書くというのは自分自身にむきあい、社会におけるいろんな事象とも対峙し、そのひとつひとつを自分のところで感じ、書き留めていくという、人間として最も基本的、かつ本質的な意味での「書く」ことの真意に触れるようなおもいがする講演であった。

図書館職員 池田 定男

## モブ・ノリオ氏に聞きました！

Q1 「読むこと」について。読むときにどんなところに面白さを感じますか？

A：書き手のパイプを感じるものに強く引っ張られます。文学どうこうを抜きにして自分がいかに無知であったかと愕らされる読み物に出会ったときとかね。

Q2(お忙しいと思いますが)本を読む時間はありますか？どこで、どんな本を読まれますか？

A：読む時間はあります！電車乗ってるとき、家で寝ながらでも読んだりしますし、最近社会科学系の本に興味があります。東南アジアの地図を渡されても国境が引けなかったり、欧米以外の国や歴史を知らない弱さを感じるというか…。自分たちが子どもの頃は「大人は教養があってあたりまえ」と思ってきたけど、実際は普通に「ゲームどれ買おう」って考えているような大人が多いし、それが普通になってる。自分はそうはありたくないと思っているんで、

Q3 本は図書館で利用されますか？あるいは買ってコレクションするタイプですか？

A：難しいところですが…こないだ大阪市立図書館へ行ったとき自分の本を探してみたら、他の作家の本は一冊ずつなのに2冊も置いてあって「買う人減るやん、2冊もいらんやろ〜」って(笑)ちょっと読むだけでいい本は図書館で借りればいいと思うけど、読んでよかった本は買い直しますね。図書館の本でも読み終われば自分のものになった気はするんですが、やっぱりよかったものは手元に置いときたいですね。

Q4 作品を読んだ人の感想で、逆に気づかされたことはありますか？

A：自分自身が改めて作品を読んで、驚きました。古井由吉さんの選評で「神話といわず例話の、始まりがひそむ。」という言葉は「そういう読み方もあるのか」って思いましたけど。あとは「介護入門」のオビにありますが、内田裕也さんの「書いた奴もエライが選んだYATSURAもエライ！」にも“なるほど”って思いました。

## 関西ゆかりの芥川賞・直木賞作家たち

70年以上の歴史を持つ芥川賞・直木賞は、多くの作品・作家を世に残してきました。

東日本出身の受賞作家が多い、これらの賞ですが、前述のモブ・ノリオ氏、先日直木賞を受賞された松井今朝子氏ら、関西にゆかりのある作家も多く受賞しています。

芥川龍之介賞とは・・・

芥川龍之介の名を記念して、昭和10年に制定された。各新聞・雑誌（同人雑誌を含む）に発表された純文学短編作品中最も優秀なるものに呈する賞（応募方式ではない）。主に無名もしくは新進作家が対象となる。

直木三十五賞とは・・・

直木三十五の名を記念して、芥川賞と同時に昭和10年に制定された。各新聞・雑誌（同人雑誌を含む）あるいは単行本として発表された短編および長編の大衆文芸作品中最も優秀なるものに呈する賞（応募方式ではない）。無名・新進・中堅作家が対象となる。

<http://www.bunshun.co.jp/award/index.htm> より抜粋

### 兵庫県

田辺聖子 [大阪府出身 伊丹市在住]

『感傷旅行(センチメンタル・ジャーニー)』

第50回芥川賞受賞

放送作家で恋多き女、有衣子。「前衛党」の党員に恋をし、親友のヒロシに相談するところから話は始まる。著者は昭和3年、大阪生まれ。2003年に映画化された『ジョゼと虎と魚たち』や、昨年から今年にかけてドラマ化された『芋たこなんきん』など、大阪の庶民を描く。

小川洋子 [岡山県出身 芦屋市在住]

『妊娠カレンダー』

第104回芥川賞受賞

姉夫婦と生活をともにする「わたし」。妊娠によって日々変わっていく姉の様子を、日記形式でリアルに書かれた作品。本屋大賞を受賞、映画化もされた『博士の愛した数式』で知られる著者は、2007年の第137回から芥川賞選考委員も務めている受賞作家。

### 和歌山県

中上健次 [新宮市出身]

『岬』

第74回芥川賞受賞

著者の郷里紀州を舞台に、逃れられない血・土地への宿命を負う青年秋幸の苦悩を、鮮烈な文体で描く。著者は、異なる作品中に何度も同じ出来事や人物を登場させているが、『岬』『枯木灘』『地の果て至上の時』は秋幸三部作とも呼ばれる。

## 京都府

綿矢りさ [京都市出身]

『蹴りたい背中』

第 130 回芥川賞受賞

クラスになじめない女子高生・ハツとにな川の等身大の日常を細かい描写で書いた作品。著者は高校在学中に第 38 回文藝賞を『インストール』で受賞し、史上最年少の 19 歳で芥川賞を受賞。同じく芥川賞を受賞した、金原ひとみとともに大きく報道された。

松井今朝子 [京都市出身]

『吉原手引草』

第 137 回直木賞受賞

吉原一の花魁・葛城の失踪事件を、ある男が吉原での関係者に聞き込みする形で話は展開していく…。演劇や歌舞伎にも精通する著者は、この作品で当時の吉原の様子やしきたりなどを丁寧に描いており、時代小説初心者にも読みやすい内容となっている。

惜しい

村上春樹 [京都市出身]

1987 年発表の『ノルウェイの森』が大ベストセラーとなり、海外でも絶大な人気を誇る作家。また、米文学の翻訳家でも知られる。芥川賞には第 81 回 / 第 83 回の二度ノミネートされているが、受賞は逃している。ノーベル文学賞受賞が期待される。

## 滋賀県

惜しい

姫野カオルコ [甲賀市出身]

1997 年『受難』、2003 年『ツ、イ、ラ、ク』に続き 2006 年には『ハルカ・エイティ』で 3 度目の直木賞候補となるが、いずれの作品も受賞には至っていない。しかし、女性を独特の視点から描写する作者のファンが多く「次回作こそ！」と受賞を期待する作家の一人。

## 大阪府

司馬遼太郎 [大阪市出身]

『梟の城』

第 42 回直木賞受賞

戦国末期の権力争いを背景に、豊臣秀吉暗殺を謀る伊賀忍者葛籠重蔵と、伊賀を売り武士として出世しようとする風間五平の生きざまを描く。産経新聞記者であった著者が歴史小説家へと転身する契機となった作品で、1963 年、1999 年に映画化された。

東野圭吾 [大阪市出身]

『容疑者 X の献身』

第 134 回直木賞受賞

天才物理学者・湯川と友人で刑事の草薙が、ある殺人事件の容疑者に迫る。湯川と草薙は『探偵ガリレオ』『予知夢』にも登場するため、この作品は『ガリレオ』シリーズ第 3 弾に位置付けられる。著者にとって直木賞候補 6 作品目にして悲願の受賞となった。

## 奈良県

モブ・リオ [桜井市出身]

『介護入門』

第 131 回芥川賞受賞

自宅で祖母を介護した経験を元に、独特の文体でつづられたデビュー作。昭和 45 年生まれの著者は、大阪芸術大学芸術学部文芸学科卒、同大学専攻科除籍。故中上健次氏が組織した熊野大学に参加した経緯もある。

地図：中谷 由紀子  
(図書館職員)

## 日本人のノーベル文学賞作家たち

ノーベル文学賞とは・・・

ダイナマイト発明者のアルフレッド・ノーベル（1833～96）の遺言により，他の分野の賞とともに 1901 年より授与され始めた。

ノーベル文学賞は他の文学賞と異なり，特定の対象作品でなく，ある作家の作品全体に対して与えられる。

候補者リストの作成は，スウェーデン・アカデミー（定員 18 名）の会員から互選で選ばれた 5 名で構成されたノーベル委員会によって行われる。第 1 次リスト約 150 名，第 2 次リスト 12,3 名，第 3 次リスト 5 名程度まで絞られた後，アカデミー会員 18 名全員による多数決で決定する。



© The Nobel Foundation.

また，ストックホルムのノーベル図書館に，世界各地で出版された現代の文学作品を集めている。原著が主要な言語以外のものは，スウェーデン語，英語，フランス語，ドイツ語など主要な言語に翻訳された図書が所蔵されている。

ノーベル文学賞のメダルには，月桂樹の木の下に座っている若者が女神ミューズの歌を聞きながら書き取っている姿が表されている。また，“*Inventas vitam juvat excoluisse per artes*”という，古代ローマの詩人ウェルギリウスの「アエネーイス」の一節が刻まれている。

参考：柏倉康夫『ノーベル文学賞 作家とその時代』丸善，1992

Nobelprize.org [オンライン] < <http://nobelprize.org/index.html> >

川端康成，大江健三郎両氏の作品から，それぞれ 3 点ずつ文庫・新書を中心にご紹介します。

川端康成（1968 年受賞） 大阪市出身 1899(明治 32)年 6 月 14 日～1972(昭和 47)年 4 月 16 日  
受賞理由：“for his narrative mastery, which with great sensibility expresses the essence of the Japanese mind”



古都（新潮文庫） 2階-文庫 913.6-KAW

かつて，日本には京都があった。といえば，読者の方は驚かれるかもしれない。確かに作品に出てくる京の年中行事は今でも多くの人々を楽しませている。

作中で主人公である千重子は京都の四季のなかで，その年中行事とともに描かれ，その心の移ろいすらも季節の情景に重ねられている。この作品は高度経済成長期を前に変わり行く古都の残像を留めようとする，著者の京都へのオマージュともいえる。



千羽鶴（新潮文庫） 2階-文庫 913.6-KAW

主人公菊治の縁談話から物語は始まる。そこに亡き父の元愛人の二人の女性と，そのうちの一人の女性の娘の複雑に絡み合う情愛と情念を描いた作品である。登場人物の会話を通して，一人一人の心の動きに添いながら読み取ると，人間の善だけではない割り切れない一面を感じ取ることができる。

茶の湯，やきものである志野茶碗が物語の随所にあらわれるため，茶道，やきもの世界を知っているとより一層楽しめるだろう。



雪国（岩波文庫） 2階-文庫 913.6-KAW

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」

おそらく誰でも知っている書き出しで始まるこの小説。でも、その先は？となると、なかなか出てこないのではないかな。

主な登場人物は、無為徒食の島村、温泉町の若い芸者駒子、「悲しいほど美しい声」の娘葉子の3人。島村はよく一人で山歩きをするが、山から下りた温泉町で駒子と出会う。妻子のいる東京に帰った島村が、駒子を忘れられずに会いに行くのが冒頭のシーンだ。その列車の中で病人を介抱する葉子を見かける。島村は駒子を思いつつも、葉子が気になる…。

この作品は短編として書き始められたものが書き継がれる形で発表され、一度出版された後にも更に書き継がれたため、著者もいうように、「不統一、不調和はいくらか」見える。「注」に、どの部分がいつ発表されたものか記載があるため、どのように書き継がれたのか追うのもおもしろいだろう。

大江健三郎(1994年受賞) 愛媛県出身 1935(昭和10)年1月31日～

受賞理由: "who with poetic force creates an imagined world, where life and myth condense to form a disconcerting picture of the human predicament today"



ヒロシマ・ノート（岩波新書） 2階 914.6-00E

まだ若い小説家だった著者が取材のため広島を訪れ、調べたことや感じたことをまとめた作品。著者は「エッセイ」といっているが、ルポルタージュ的な内容になっている。

著者の長男で現在は音楽家である大江光氏が誕生した直後で、「自分の最初の息子が瀕死の状態でガラス箱のなかに横たわったまま回復のみこみ」が全くたたない状態で広島に旅立ったことが冒頭で述べられている。しかし、広島で見聞きしたことを通して著者自身がそうした状況を受け入れる気持ちになっていく様子がわかる。

また、第九回原水爆禁止世界大会のイデオロギーの違いによる混迷ぶりは、その後どうなっていくのか。この本を読み、平和について考えてみてはどうか。



同時代ゲーム（新潮文庫） 2階-文庫 913.6-00E

この作品は主人公である語り手が妹へあてた6通の手紙という形式をとっている。そして、作中には語り手の故郷である「村-国家-小宇宙」の歴史、主人公が手紙の中で語る時間、主人公と妹の人生の物語の時間という複数の時間があらわれる。読者はその渾然とした時間感覚と、語り手の豊かさに恍惚となるだろう。



「自分の木」の下で（朝日新聞社） 2階 914.6-00E

長い小説家の生活で初めての小学校上級から大学受験生くらいの子供向けの短編作品集。「自分の木」とは祖母の話のなかの言葉である。「人の魂は、自分の木の根方から谷間に降りて来て人間としての身体に入る。死ぬ時には、体がなくなるだけで、魂はその木のところに戻ってゆくのだ…」。表紙や挿画は、大江ゆかり夫人の描いたもの。

特集の中で紹介している作品は全て図書館で所蔵しています。書名等を入力すれば検索できますので、興味を持たれた方は蔵書検索EZ-Catで探し、手にとってみてください。

# 中央図書館開館 20 周年

この秋、中央図書館は 20 周年をむかえました。つまり、中央図書館はみなさんと同世代なのです。開館 20 周年を記念し、当時の様子と現在の様子を写真やデータで比較してみました。あわせて当時の話題や文学作品もご紹介します。

本学中央図書館は、今から 20 年前の 1987 (昭和 62) 年 3 月に完成し、同年 10 月から開館した。したがって今年ちょうど開館 20 周年を迎えたことになる。

中央図書館建設をふりかえってみれば、本図書館が開館される以前の図書館は 1 号館に図書館中央事務室があり、そこで図書館資料の受入、整理を一手に行い、旧教養部 (1 号館) ならびに各学部の図書室で閲覧・貸出業務を行ってきた。つまり「調整された分散方式」により図書館の業務が行われ、一体としての京都産業大学図書館が形成されていた。

しかしながら資料が増えるにつれ、従来のやり方では図書館機能に限界が生じ、この現状を打開するために、本学創立 20 周年記念事業の一環として念願の中央図書館が建設されたのである。建設にあたっては、いろいろな側面から幾度と無く検討を重ね、国内の各大学図書館はもとより国外の

図書館をも視察し、それぞれの長所を採用し、当時としては、他大学のどこの図書館にも優るとも劣らない施設・設備を擁する図書館であったと言っても過言ではなかったかと思われる。その証しに日本図書館協会建築賞の優秀賞の受賞や、全国から多数の来館者が視察に訪れ、新しく図書館を建てる場合の参考とした所もあると聞いている。

20 年の歳月が流れ、一部の施設や設備面での改装や改築はあるものの、今なお、他大学図書館と比べても色あせない気品と風格を備えた本学中央図書館は、京都産業大学にとって必要不可欠な大学の中核を成す施設として、教育、研究ならびに学習活動に必要な学術情報・資料を収集・提供をしている。また、業務に携わるスタッフ一同は常に、誰からも頼られる図書館の構築を目指し、更なる発展を願うものである。

図書館事務部長 はくもと まさし  
白本 正二

Back to

1987

## 文学賞関係

- 芥川賞 第 97 回 (1987 年上半期) 村田喜代子 『鍋の中』  
第 98 回 (1987 年下半期) 池澤夏樹 『スティル・ライフ』, 三浦清宏 『長男の出家』  
直木賞 第 97 回 (1987 年上半期) 白石一郎 『海狼伝』,  
山田詠美 『ソウル・ミュージック・ラバーズ・オンリー』  
第 98 回 (1987 年下半期) 阿部牧郎 『それぞれの終楽章』  
ノーベル文学賞 ヨシフ・プロツキー (アメリカ)

## その他のできごと

利根川進氏, ノーベル生理学・医学賞受賞  
国鉄分割・民営化, JR グループ発足

新語・流行語大賞 (<http://www.jiyu.co.jp/singo/>)

新語部門: 金賞「マルサ」、銀賞「JR」、銅賞「第二電電」、表現賞「サラダ記念日」「朝シャン」「ノリサメ」

流行語部門: 金賞「懲りない」、銀賞「なんざやなあ」、銅賞「ゴクミ」

大衆賞「マンガ日本経済入門」「ワンフィンガー ツーフンガー」「サンキューセット」

特別賞部門: 特別功労賞「“国際”国家」、特別賞「鉄人」



### 2階メインカウンター

カウンター前には何もなく、スッキリ。  
カウンター上はいま、全面フラットですが、貸出・返却コーナーは少し高くなるように台が載っていました。取り外したのは昨年なので、まだ覚えている人が多いでしょう。

### 2階新聞・雑誌コーナー

当日の新聞は壁に向かって読む形になっていました。このソファ、いまどこに置いてあるかわかりますか？



### 1階読書室

「読書室？そんな部屋ないはず...」  
そう思ったあなたは、図書館をよく知っているといえるでしょう。なぜなら、いまここは、パソコン室なのですから...

### 3階ラウンジ

広々としたスペースでくつろげるようになっていますが、いまは参考図書コーナーになりました。20年間の資料の充実を表しているといえるでしょう。



開館当時のライブラリー・カード  
学生証はまだ紙でした。

### 図書館をめぐる数字の変遷

貸出冊数：普通図書 5冊	10冊 (1993年～)
蔵書数：約45万冊	約100万冊
開館日数：259日 (1988年度)	301日 (2006年度)

# 海外の図書館紹介

## ハーバード・ロー・スクール図書館

(アメリカ)

一高 龍司

筆者は、本学の在外研究員制度の下で、昨年9月より本年8月まで、米国 Harvard Law School (HLS), East Asian Legal Studies (EALS) Programにて Visiting Scholar として研究に従事する機会を頂いた。以下で、HLS 図書館について、租税法を専攻する筆者の経験と HLS のウェブサイト、パンフレット等の情報に基づき、簡単にご紹介したい。

Harvard 大学は米国で最長の歴史を有する高等研究機関であり(1636年に Harvard College 創設)、これまで7人の大統領が卒業し、その教授陣からは40人超のノーベル賞受賞者を輩出してきた名門である。HLS の設立は1817年で、現存する米国の法科大学院では最古とされる。現職では Roberts 連邦最高裁判所首席裁判官など数多くの影響力ある法律家がこので学び、現在は約1880人の学生、84人の教授・准教授等が、19ある建物で研究に従事している。各建物には、Pound (Roscoe Pound), Holmes (Oliver Wendell Holmes) 等、歴史に名を残した HLS の法学者の名が付されている。EALS等の個別の研究プログラムが15以上あり、海外からの研究者も多い。学生の修業課程には3年のJDコースと、留学生の多い1年のLL.M. コースがあり、学生は、年約250を超す共通の授業から選択して受講する(博士号取得を目指すSJDコースもある)。予習が前提の授業のため、午後3時台には暗くなり始める厳しい冬を含め、学生には日々の課題をこなすための適切な場所と時間が必要となる。

大学全体で約90ある図書館のうち、Langdell Hallにある HLS 図書館は、Widener 図書館に次ぐ学内第二の規模を誇る。学生との対話を取り入れた授業方法であるソクラテスメソッドの先駆者としても有名な Langdell 教授にちなんで名付けられたこのギリシャ神殿風の壮麗な建物は、1996-97年に3500万ドルを投じて改築されたものだ(その外観から連邦最高



裁判所を連想する人もいるであろう)。Langdell Hall は、HLS の主要な建物と地下道で繋がっており、利用者は移動に際し天候を気にする必要がない。

HLS 図書館の蔵書は約200万冊あり、毎年3万冊超を入荷するという。年間の予算は1000万ドルを、勤務する職員は100名を超える。古い資料はマイクロフォーム化され又は廃棄されるほか、毎年2.5万ないし3万冊が、同じマサチューセッツ州内の Southborough にある Harvard Depository という書庫に移動される(HLS 関係のみで50万冊超保管)。「HLS 図書館の特に優れた点」(Daniel Halperin 教授談)は、第1回連邦議会以来の連邦議会資料が全てマイクロフィッシュ形式で閲覧・複写できることだ。むろん Westlaw 等のデータベースも豊富に利用可能である。Langdell は主に英米法系の書物を揃え、日本を含む諸外国の蔵書は、隣接する Lewis International Center で入手できる。日本法に関して言えば、ジュリスト、民商法雑誌等の主な法律雑誌ならあるし、主要な研究書や体系書はかなり集めている。なお日本語文献は、東アジア諸国の人文・社会系の文献を扱う Harvard Yenching 図書館で見つかることも多い。その100万冊を超える蔵書のうち、日本関連のものは約30万冊ある。

筆者に関する限り、一部を除き貸出冊数に制限はなく、貸出期間は半年近くある(継続貸出可)。希望する図書が貸出中なら、IDとpasswordで管理されたウェブサイト上でリクエストをかければ、その旨保有者に電子メールで連絡され、保有者は数日後に返却を求められる。自分の貸出状況等は全て各自がウェブ上で確認可能だ。返却期限が迫れば、その旨を伝える電子メールが送られてくる。開館時間は、



(3階キャレル)

授業期間内なら、平日と日曜日は朝7時から深夜2時までであり、金・土曜日でも午後10時・9時まで利用可能である。試験期間中は24時間開館も珍しくない。

文献の豊富さや組織的な情報管理、建物の壮美だけが売りではない。HLS図書館には、2階から4階まで、書棚の間にゆったりとした閲覧空間が広がる。横長の大きな机や個別のキャレルは十分なスペースが確保され、ノートパソコンを置いても狭さは感じさせない。椅子の一部は、洗練されたデザインのものだ。各階には、ソファやチェス、一部渡り廊下には大きなクッションも置かれていて、軽い休憩や雑談も可能だ。4階のレファレンスでは、法曹資格を有する職員が親切かつ適切に対応してくれる。複写時には学生証の電子マネーが便利だ。



HLS図書館は、美術館の機能を併せ持ち、4階南側の Root Room 及び北側の Caspersen Room で、法制史に関わる美術品や希少価値の高い文献などの収集・展示も行っている。(参照 <http://www.law.harvard.edu/library/collections/special/index.php>)。また、租税法では事業目的法理の文脈で有名な Learned Hand 判事の肖像など、著名な法学者・実務家の肖像(画)を館内の至る所で観覧できる。

問題点として思いつくのは、時折寒すぎる冷房ぐらいた。これ以上の米国法系図書館は想像し難いというのが実感である。

最後になってしまったが、筆者の文献収集と本記事執筆に関し、HLS 図書館の日本語資料担当の本宿マリ子氏にご協力を頂いた。感謝申し上げたい。

(いちたか りょうじ 法学部教員)



(Caspersen room)



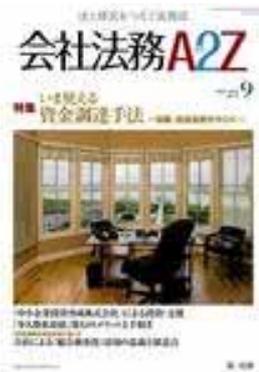
(4階中央ラウンジ)

雑

誌

# 会社法務A2Z

就職活動を控えて何か勉強しておくとしたら、何をすればよいでしょうか。もしそう聞かれたら、私は毎月25日発行の月刊雑誌『会社法務A2Z(エイトウーゼツト)』(第一法規)をお勧めします。買収防衛とは何か、経営と企業の社会的責任、新会社法のわかりやすい解説、企業の情報公開、労務管理と就業規則のポイントなど、法律面、経営面から会社というものがどう動いているかわかりやすく解説されています。経営者の気分にとって勉強することができます。会社総務にとって特に必要な基本事項が毎回特集されているので、どの業種の企業を希望する人にとっても無駄なページはありません。やさしそうな割には内容が高度なので、企業研究とあわせてこれを読んでおけば他の人より一歩リードできそうですね。私もこの中で、民法と会社法を楽しいギャグ入りで解説するコーナー、ユミ先生のオフィスパワー日記を連載しています。



325SAE / 2階-雑誌

ぜひ読んでみてくださいね  
法学部教員  
木俣 由美(きまた ゆみ)

『会社法務A2Z』  
第一法規

# Lib.

## 神山人から

# ぴあ・関西版

雑

誌

今年の夏みなさんは、どのように過ごされましたか? 野外ライブに参加し、盛り上がった方も多いのではないのでしょうか。また、秋はどのように過ごされますか? 芸術の秋で演劇鑑賞や美術展に行かれる方も多いのではないのでしょうか。ライブに参加して盛り上がりた方、美術展で芸術にふれたい方などにピッタリな雑誌が『Weeklyぴあ』。ライブ情報やアーティストに関する情報、映画や演劇、美術展の情報さらにはテレビ番組の情報までもが紹介されています。

イベント情報満載のこの雑誌ですが、イベント情報だけではありません。『はみだしYOUとPIA』というコーナーがあります。テレビ番組が紹介されているページの欄外にこっそりと読者からの投稿記事(笑いのツボをつかれる小ネタが多い)が紹介されています。今まで気付いていなかった方もいるかもしれません、このコーナーの歴史は長く30年以上続いています。



001PAA1 / 2階-雑誌

次に『Weeklyぴあ』を読むときは、イベント情報だけでなく、是非一度『はみだしYOUとPIA』をご覧ください。思わず顔がほころぶような小ネタが投稿されているかもしれません。

情報センター職員  
前田 好直(まえだ よしなお)

『ぴあ・関西版』  
ぴあ大阪支社

偶然、ハッとするようなことばに出会うことがある。そのたびに、偶然でなく、引き寄せられたのでは...と思ったりもする。この本も私にとって出会いの奇跡を感じる本だ。短いタイトルで2ページほどにつづられた55章。高校生のころにたまたま買った本だったが、それから幾度となくこの本のことばに元気をもらったり、励まされたりしてきた。

いくつか印がつけられている。

ふたつよいことばでないものよ

灯を消すほうがよく見えることがある

あのころの私を支えてくれたことばたち。今の自分を取り巻く状況をどのようにとらえるか、秘策となることばが目に入る。自分の周りで起こっている出来事も少し距離を置いてみると奥行きが見えてくる。最悪だ!と思っていたことが、案外、その後大きな成長をもたらしてくれたら、「あれがあったから今の自分がいるんだ」と逆に感謝することさえある。この本から

ものごとを多角的にみるといつとらえ方を知り、少しは成長できたかと思う。それでも、日々いろいろなことが起きる。そんなとき、本の開くとこんなことばが目に入る。

心配も苦しみも楽しみみのうち

今、あなたが引き寄せられることばはどんなものでしょうか。

卒業者(京都市立旭丘中学校教諭)

朝倉 将宏(あさくら まさひろ)

『ころの処方箋』 河合隼雄著 新潮社



140.4-KAW / 2階-文庫

「前略 蔵王のダリア園から、ドッコ沿へ登るゴンドラ・リフトの中で、まさかあなたと再会するなんて本当に想像すら出来ないことでした」

偶然に有馬靖明(前夫)と再会した勝沼亜紀が、衝動に駆られ手紙をしたためたところから、物語が始まります。小説全体が、有馬靖明と勝沼亜紀との間で綴られる手紙から構成されています。そして、全部で14通の手紙のやり取りを通じて、過去を見つめなおし、それぞれの未来に向けて歩き出すまでの過程が描き出されています。

ダリア園、ドッコ沿、ゴンドラ・リフトという心地よい語感から始まり、二人の間で交わされる手紙の一通ずつを、テンポよく読み進めることができました。

この小説が私の本棚に加わってから、約10年が経ちます。年に数回は、パラパラとめくっていましたが、この機会に通読してみました。10年前の読後感はおぼろげで

比較はできませんが、もっしはらくは手元に置いておこうと思う一冊です。長編というほど長くはありません。また、新潮社から文庫本も出ています。あなたの本棚に一冊加えてはいかがでしょうか。

マネジメント研究科 博士後期課程

(平成19年9月修了)

威知 謙豪(たけちのりひで)

『錦 繡』

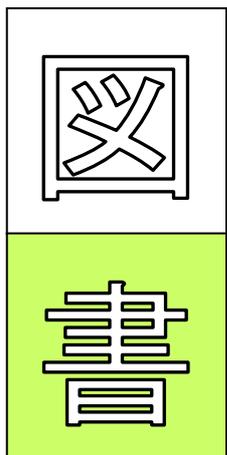
『宮本輝全集』 第2巻収録

宮本輝著 新潮社



918.68-MIY-2 / 地下1階

## ころの処方箋



# なび

## のオススメ!

## 錦 繡



# 情報の探し方

このコーナーでは、現在導入しているデータベースの検索ツール等を紹介します。

## 契約データベース紹介

日本国語大辞典WEB版

JK select series 日国Online

「日本国語大辞典」(通称：日国(にっこく))は、1972年に初版(全20巻、45万項目75万用例)が刊行され、2000年には第二版(全13巻、50万項目100万用例)が刊行されました。

「日国」は、国語学や国文学者を筆頭に、歴史、仏教、民俗、自然科学など、幅広い専門領域の、3000人を超す権威ある研究者、専門家の協力を得て編纂されています。



この日本最大の国語辞典が今年7月より、デジタル化され巨大なデータベースとして整備され「日国オンライン」としてインターネットを通して利用できるようになりました。

「日国オンライン」にアクセスすると、以下のような画面が表示されます。「検索語」の入力ボックスに調べたい言葉を入力して「検索」ボタンを押すだけで、調べたい項目・言葉が検索できます。



なお、アクセス後すぐに表示される「基本検索」のほかに複合の検索語・範囲や条件を指定できる「詳細検索」の2つのモードがあります。通常は「基

本検索」で事足りるでしょう。

また検索範囲の設定では、「見出し」「全文」検索以外にも「用例」(全体、本文、出典情報)や「方言」(全体、異形含む見出し)から検索でき、目的に応じた探し方ができます。

検索結果一覧には、見出しだけでなく本文の一部も表示されるため、容易に目的の言葉を見つけ出すことができるようになっています。

ここでは一例として「やま」を検索してみます。検索結果は以下のように表示されます。



上の図ではわかりにくいですが、「やま【山】」(名)①火山作用、浸食作用、造山作用によって地表にいちじるしく突起した部分。...」から始まり、名詞だけでも25の意味があげられ、そのほとんどに古事記、万葉集などの上代から遠藤周作などの現代に至る多くの文献を基にした用例が付いています。

また、言葉の意味以外にも、方言、語源説、発音、辞書、表記、図版などが記載されています。なかでも発音については、標準アクセントはもちろんのこと、文献を元に推定された京都アクセントの歴史的变化(平安、鎌倉、室町、江戸の各時代ごと)も載っているため、アクセント史を学習・研究する上で重要な情報となるでしょう。また、西日本のアクセントを代表するものとして現代京都アクセントも掲載されているため、標準アクセントとの比較や歴史的アクセントとのつながりを考える上での材料ともなります。

このように、言葉の意味を調べるだけでなく日本語についての情報を得るための重要なツールとして、ぜひご活用いただきたいと思います。

利用は、以下のURLにアクセスしてください。

<http://nikkoku.jkn21.com/>

## 教員文庫寄贈一覽

寄贈順(4/1~8/31) 敬称略

**生田 真人** (外国語学部)

『オーストリア形象と夢：帝国の崩壊と新生』 松本工房, 2007

**佐々木 利廣** (経営学部)

『チャレンジ精神の源流：プロジェクトXの経営学』 ミネルヴァ書房, 2007

**川村 覚昭** (文化学部)

『教育学の根本問題』 ミネルヴァ書房, 2006

『現代教育の基礎』 昭和田, 1983

『応答する教育哲学』 ナカニシヤ出版, 2003

**小池 和彰** (経営学部)

『アカウンティング・トピックス』 創成社, 2007

『日商簿記2級・3級の「仕訳の切り方」・商業簿記編』 創成社, 2007

**小林 一彦** (文化学部)

『歌のこころ ひとの心：『古今和歌集』編纂千百年』『新古今和歌集』編纂八百年記念出版』 大学コンソーシアム京都, 2006

『戦後和歌研究者列伝：うたに魅せられた人びと』 笠間書院, 2006

**中井 透** (経営学部)

『価値創造のマネジメント』 文真堂, 2006

『入門アントレプレナー・ファイナンス：起業家のための財務と管理』 中央経済社, 2005

『経営学用語辞典』 税務経理協会, 1997

『経営財務計算論』 中央経済社, 1996

**中 良子** (文化学部)

『神話のスパイラル：アメリカ文学と銃』 英宝社, 2007

『表象と生のはざままで：葛藤する米英文学』 南雲堂, 2004

『共和国の振り子：アメリカ文学のダイナミズム』 英宝社, 2003

『スモールタウン・アメリカ』 英宝社, 2003

### 原稿を募集しています

内容：『Lib.なび』コーナーの「図書」「雑誌」「映画」「音楽」のいずれか1つのジャンルについて。

字数：17字×28行=480字

提出先：添付ファイルで下記アドレスまで。

(lib-pub@star.kyoto-su.ac.jp)



### 新規導入データベース紹介

詳細は図書館 HP をご覧ください。

日国オンライン：日本国語大辞典のオンライン版。 詳細は p.14

Opposing Viewpoints Resource Center：様々なトピックに関する英語資料を集めた学習用データベース。

### 秋学期の図書館利用教育計画

法学情報検索法(クラス単位)

法学部1年次生対象に選択科目「プレップセミナー」の授業の1コマで実施します。

主な内容は、法学文献・情報の探し方(入門編)、法学関係データベースの検索実習です。

ゼミ対象文献探索ガイダンス(クラス単位)

春学期に引き続き実施、ゼミのテーマに合わせた文献探索法の説明とデータベース検索実習を行います。

就職支援ガイダンス(個人単位)

就職活動に役立つ「企業情報検索」を、進路センターと共催で実施。業界の動向や個別企業の情報を検索する方法をお教えます。

日程等は図書館 HP, POST, 館内掲示でご案内します。

データベース検索説明会(教員・院生対象)

EBSCOhost, LexisNexis などの検索法を説明します。10月24日, 11月28日, 1月23日の各水曜日午後2時から行います。

詳細は POST 等でご案内します。

### (案内) ハート・ウォーミング・プログラム

映画上映会

10月25日から1月10日にかけて計9回, 図書館ホールにて上映予定です。日程, タイトル等は図書館 HP, POST, 学内掲示板, 館内掲示でご確認ください。

### (予告)「第3回図書館書評大賞」の選考・表彰

表彰

9月30日(日)で応募を締め切ります。

選考・表彰に関する今後の日程は, 次の通りです。

11月28日(水) 大賞・優秀賞・佳作発表

12月14日(金) 表彰式(5号館ロビー)

大賞・優秀賞・佳作掲載『Lib.』増刊号発行

### 編集後記

通常は視聴覚資料の紹介もしていますが, 今号は図書を紹介に絞ってみました。一度は聞いたことのある作品が多いと思います。手に取ってみてください。誌面の構成・カットにご協力いただいた漫画部, デザインクラブのみなさん, ありがとうございます。

# 司書のお仕事

その2

前号では利用者サービスの面から図書館員の仕事を紹介したが、今号では、利用者の眼に触れにくい事務室で、図書館サービスを後方から支える仕事をしている図書館員の業務内容の一端を紹介しよう。



## 資料の受け入れ



本学では毎年約三万冊の資料を受け入れているが、書店から届いた資料の検品から始まり、一件ごとにID番号を与え、バーコードを貼り、蔵書印を押し、並行して書店への支払処理をするまでの一連の作業は年間を通して途



絶えることがない。一番の課題は、資料の受入処理から

目録データの作成を経て、利用者が資料を利用できるまでの期間をいかに短縮するかであるが、発注先の書店と連携して工夫を重ね、かなり早く利用者の手元に届けることが可能になった。利用者と直接接しない部署にいるが、一利用者の視点を忘れないことが肝心だ。



## 資料の組織化（所蔵目録をつくる）



図書館が受け入れている情報源は、印刷媒体から電子媒体へと年々変化しているが、図書、雑誌、新聞、視聴覚資料などのタイトルや著者名、出版社、出版年、内容などの書誌情報を一定のルールによって一件ずつ記録し、主題を表わす分類番号を付けて自館の蔵書目録を作成する仕事は基本的には変わっていない。国立情報学研究所の総合目録データベースにも所蔵データを登録しており、他大学の蔵書と併せてNACSIS Webcatでどこからでも簡単に調べることができる。



## 図書館の広報活動



図書館は、その便利さを知っている人だけに利用される存在であってはいけない。図書館報編集委員会「展示企画会議」「ハート・ウォーミング・プログラムプロジェクト」「図書館書評大賞選考委員会」「ホームページ委員会」などのメンバーである図書館員は、新たな利用者を開拓するために、さまざまな手法で広報を行っている。

図書館報『Lib』は、年二回（四月と十月）の発行に向けて、できるだけ学生や教職員を巻き込んだ読者参加型の企画を立てようと、毎回の特集に頭を悩ませているが、情報発信の場合は図書館報だけに限らない。「展示」「企画や「映画上映会」などと同じテーマで立体的に連動して企画することも多いから、社会の動きや関心と関連したテーマをキャッチするアンテナを常に張り巡らしていることが必要だ。しかも、図書館資料の紹介や情報提供だけでなく、利用者の読書意欲や情報リテラシー能力を喚起させることも可能になるなど、常に利用者の好奇心に働きかける欲張りな活動を目指している。



発行 京都産業大学図書館  
所在地 〒603 8555  
京都市北区上賀茂本山  
電話 (075) 705 1446